

大成ロテック ベトナム／ミャンマー／カンボジア 現地法人設立を視野

大成ロテックは、ベトナム、ミャンマー、カンボジアで現地法人の設立を視野に入れて東南アジアの事業展開を進め



る方針だ。25日に開いた「国際技術セミナー大成ロテックカンボジア工科大学」を前に、日刊建設通信新聞社などの取材に応じた町田佳隆営業本部部长国際担当が明らかにした。

同社は、新中期経営計画で新規事業への挑戦を掲げており、その施策の1つとして東南アジアでの事業展開を計画している。既に中国では合弁会社を設立している。

町田部長は、「日本の道路は傷んだアスファルトを撤去して、再生して使うなどしているが、東南アジアはまだ技術が確立されていない」と課題を指摘した上で、「ライフ

サイクルコストや環境を考えると、（東南アジアでも）最終的には再生材料をえるように支援していきたい」と語る。特にカンボジアとミャンマーは「道路が傷むと、その上から舗装するため、道路面の位置が高くなってしまふ」といった課題もある。

現地法人設立への動きとしては、「ベトナムはことし4月から本格的に動いており、その1年ほど前から調査を進めている」（町田部長）。

国際技術セミナーは25日、カンボジア工科大学からラダ

・チェレア学部長ら3人を招き、ベルサール新宿グラウンドで開かれた「写真」。

町田部長らが6月にベトナム、カンボジア、ミャンマーを訪れた際、カンボジアの同大学で草柳俊二氏（高知工科大学名誉教授、東京都市大学客員教授）とともに日本の道路技術を紹介したことがきっかけで今回のセミナーが実現した。同社にとって国内では初の国際技術セミナーとなる。

セミナーでは草柳氏が「質

問や意見があれば、お互い交換して今後に生かそう」と呼び掛け、西田義則社長が「両国の情報交換や技術、人的交流を進めて、これからも永らくカンボジアのさらなる発展に貢献したい」と意気込みを語った。

引き続き、両国の道路建設事情などを紹介した後、同社東京青海アスファルト合材工場・東京臨海リサイクルセンターを視察した。26日は同社技術研究所と機械技術センターを見学する。